

図書館だより

令和6年12月2日発行

12月号

郡山第五中学校 図書委員会

1-3 1-4 2-1

学校司書 渡邊 恵美



カレンダーも残り1枚。現在、私たちが使っている暦は、地球が太陽の周りを1周する時間を1年の長さとした太陽暦です。暦には、ほかに太陰暦と太陰太陽暦などがあります。どんなしくみなのか調べてみるとおもしろいですね。

現在図書館だよりで紹介している「先生のおすすめの本」コーナーを作成しました。ぜひこの機会に読んでみて、先生と本の感想など話してみるのはいかがでしょうか。貸出冊数は1人2冊まで、貸出期間は1週間です。

図書委員おすすめの本



1-3

「君が落とした青空」
作 櫻いいよ



この小説は、事故で恋人(彼氏)をなくした主人公が事故の朝に戻って彼氏を助ける方法を探しながら何度もその日々を繰り返すタイムリーラブストーリーです。

このお話は最初と最後の主人公の彼氏への想いの変化があり、とても読み応えのあるお話になっていて面白いです。

果たしてなぜその日を繰り返すのか、この繰り返す今日の中で主人公がどう変わるのか図書室にあるのでぜひ読んでみてください。

この本は、みんなが普段使っているけど名前を知らない物がたくさんっている本です。この本の特徴は、クイズ形式で書いてあるので本を読むのが苦手なひとでも簡単に読む事ができます。例えば、都道府県の名前や行事の名前などです。なので、福島県の名前の由来も書いてあります。気になった人は図書室にあるので見てみてください。



1-4

モノのなまえ事典
作 杉村 喜光

2-1

かがみの孤城
作 辻村 深月



学校での居場所をなくし部屋に閉じこもっていた中学生ころ。ある日突然部屋の鏡が光り出し、吸い込まれるように中に入ると、そこにはおとぎ話に出てくるようなお城と見ず知らずの中学生が6人。さらに「オオカミさま」と呼ばれる狼のお面をかぶった女の子が現れ、「城に隠された鍵を見つければ、どんな願いでも叶えてやろう」と告げる。

戸惑いつつも鍵を探しながら共に過ごすうち、7人には一つの共通点があることがわかる。

そしてお城が7人にとって特別な居場所になり始めた頃、ある出来事が彼らを襲う――

果たして鍵は見つかるのか？なぜこの7人が集められたのか？

謎がたくさんあって面白いのでぜひ読んでみてください。

先生のおすすめの本

小野田 耕喜先生

楽毅 (がくき)
作 宮城谷 昌光



これまでに会った多くの本から、物事の考え方や自分の生き方に大きな影響を受けてきたように思う。今から25年ほど前、道を尋ねられた初対面の方に、僅か五分後には「宮城谷昌光の『太公望』を是非に」と勧められていた。その不思議な縁から、宮城谷昌光の古代中国の歴史小説に引き込まれていった。「太公望」「孟賞君」「墨子」「重耳」「管仲」「奇貨居くべし」「香乱記」「三国志」・・・そして「楽毅」。本は読む時期(年齢)により、興味や関心、うける影響の度合いも異なるものである。「人が見事に生きるとは難しいものだな」宮城谷作品の多くに、主人公のこのつぶやきがある。「見事に生きる」とはどういうことだろう。「楽毅」は中国春秋戦国時代に生き、あの諸葛亮孔明をして軍略の天才と言わしめた名将・楽毅の生涯を描いた大作である。燕の院の「まず隗より始めよ」の格言も楽毅を得るためのもだった。他の作品も何度か読み返し、「楽毅」は3度読み返した。興味を持った方、時間的に余裕のできた方、どうぞ「見事な生き方」探し、してみませんか。

須藤 佑樹先生

『手紙』
作 東野圭吾



本の題名 『手紙』 作者 東野圭吾

<本の紹介>

強盗殺人の罪で服役中の兄、剛志。その兄から月に一度、弟の直貴のもとへ手紙が届く。しかし、この手紙によって、直貴は、進学や恋愛、就職といった幸せを掴もうとするたびに、「強盗殺人犯の弟」という現実に直面することになる。

「ガリレオ」シリーズで有名な、東野圭吾の作品です。中学生のころ、兄の本棚から持ち出して読んだこの本からは、家族の絆とは、犯罪加害者の家族の人生とは等、様々なことを考えさせられました。

来年には、ミュージカルとしても上映されるこの作品、少々重い内容ですが、一度は読んでみることをおすすめします。

安住 哲夫先生

「風が強く吹いている」
作 三浦しをん



「風が強く吹いている」

作者 三浦しをん

箱根駅伝を題材にした内容です。

走るってどういうことなんだ？10人の個性溢れるメンバーが長距離を走ること(生きること)に夢中で突き進む。自分の限界に挑戦し、ゴールを目指して襷を繋ぐことで仲間と繋がっていく…私が気になっている本です。